



Expanding Dimensions in Rehabilitation

compiled and edited by Lelia. J. Zamir

Expanding dimensions というのはうまく訳せないが、「リハビリテーションの拡大しつつある次元」ということであり、「開かれゆく地平線」とでも意識したらよいだろうか。とにかく意欲的な題の本である。編者の Zamir 女史はクリーブランドの Case Western Reserve University の OT で、アメリカのリハビリテーション特に OT 界で最近進歩しつつあるいくつかのトピックスを適切な執筆者に依頼してまとめたものである。

目次の題名をただただでも、「神経系の発達」「神経系の構造と機能」「各種の治療テクニックをめぐる混乱と矛盾」(以上 Josephine C. Moore, OTR)「感覚運動性治療テクニックの臨床的適用」「各種治療テクニックをめぐる矛盾と混乱—臨床面から」(以上 Joy Huss, OTR)「リハビリテーションに対する社会学の貢献」「患者グループの理論、構造、交流 etc」「患者グ

ループの機能」(以上 Richard O' Toole, PhD, 他)「成熟 (Lelia Zamir, OTR)「精神科的機能障害の測定・評価法」「自我の治療の利用」「患者とコミュニティに対するセラピストの責任」(以上 Robert K. Bing, OTR)「短期精神科治療の意義」「精神科理論とリハビリテーション」「リハビリテーションにおける治療のアプローチとしての実存主義」(以上 Elizabeth Boles, OTR)「職業的リハビリテーションに関する州—連邦プログラムの歴史及び法的基盤」「職業的リハビリテーション, カウンセリング」(以上 George E. Ayers PhD) などと非常に多彩であり、いわゆるファシリテーションテクニック, 社会学, 特にグループ理論, 精神科 OT, 職業的リハビリテーションなどの重要な問題が論じられている。

(Thomas, 216 ページ, 12 \$, 1969年)

(東大病院, リハビリテーション部, 上田 敏)



図説医学の歴史

ロベルト・マルゴッタ著 岩本淳訳

西洋医学の歴史を主題にした本であるために日本と中国の医学を説く部分はほとんどなく、少しさびしい感じはするが、全体としてすばらしい画と写真がたくさん載せられていてその間を読みやすい文章がうめっている。

内容は、原始人の魔法術から始まり、メソポタミア、古代インド、ギリシャ・ローマの時代を経て、中世のアラビア医学、ついでルネサンスから科学の黄金時代といわれる 17 世紀、近代医学の業績を展望して終わっている。いままで聞きなれた医学者、あるいはまったく知らなかった専門家の名前がふんだんに出てくる中で、一貫している事は、その臨床医あるいは研究者の生い立ちから主な業績はもちろん、その時代の科学的なできごと、世相、文化・政治・宗教的背景、人間関係とくに師弟関係に至る解説がなされていることである。その一端をのぞくと、医学の父ヒポクラテスについては、ヒポクラテスの誓いにはじまり、彼の出した論文抜粋、生い立ちと職歴、ヒポクラテス医学の弱点を指摘し、当時のギ

リシャの世相を描写し、さらにヒポクラテス学派による治療体系、ヒポクラテスの日常生活における体験としての格言集などに接することができる。また、数学者であり哲学者として知られるピタゴラスが、医学を科学的に体系づける推進者になった背景、芸術家として知られるレオナルド・ダ・ヴィンチが解剖学の父となりえなかった理由など興味をそそるものがある。

がしかし、この本のねらいは、原著者が序文で述べるごとく、医学の発展は大昔から現在まで常に持続していること、もう一つは医師と患者との関係で、患者が医師を信頼することの重要性、という二つのテーマを貫こうとしていることである。この意をもって通読するならば医師に限らず、一つの知識技術体系を作りあげようとするセラピストにも相通ずるものがある。

(講談社, A5版, 317 ページ, 8,000 円)

(自治医科大学, 理学療法士 谷岡 淳)